

第32回 烏丸四条の東北の地域

今回は、表題を「烏丸四条の東北の地域」としましたが、北は六角通、南は四条通、西は烏丸通、東は高倉通で囲まれた一画です。第30回の東の地域、かつ第31回の南の地域です。

残念ながら、第31回と同様に、この地域には、仁丹の町名看板は発見できませんでした。今回も、他のスポンサーの町名看板を、積極的に取り上げるようにしました。それでも、ビルが多いため、町名看板自体がそんなに多くありません。

■ 六角堂鐘楼

六角堂の鐘楼堂は、六角通りを隔てた飛地境内にあります。脇の門柱に町名看板が貼ってありますが、状態が悪いのはつきりしません。「六角通烏丸東入（堂之前町）」と読めます。鐘楼は全自動で、一日三回鐘を突くようになっています。

駒札に、鐘楼堂の消失・再建の経緯がまとめられていますので、次に翻刻しておきましょう。

（駒札）

鐘楼堂

六角通を隔て 飛び地境内にあり 慶長十年（一六〇

五）豊太閤の臣 堀尾吉晴ほりのおよしはるの嫡男 忠氏たかうじが寄進 当時は一向宗による一向一揆、加茂川洪水や大火の際にこの鐘をついて 急を市民に知らせたと云う。

この鐘は 天明の大火で焼失、天保十一年（一八四〇）再鑄するも、第二次世界大戦に献納された。現存のものは昭和二十九年に再鑄復元 銘文は 天保年間のものによる

古銘に曰く

花外 蒲牢の響き 長安 半夜の天

撃つ人は成徳を輝かし 聞く者は名纏めいでんを解く

朝に遠山の碧を渉り 暮に街市の烟けむりにむせぶ

観音妙智力 寿 幾千年か算えん

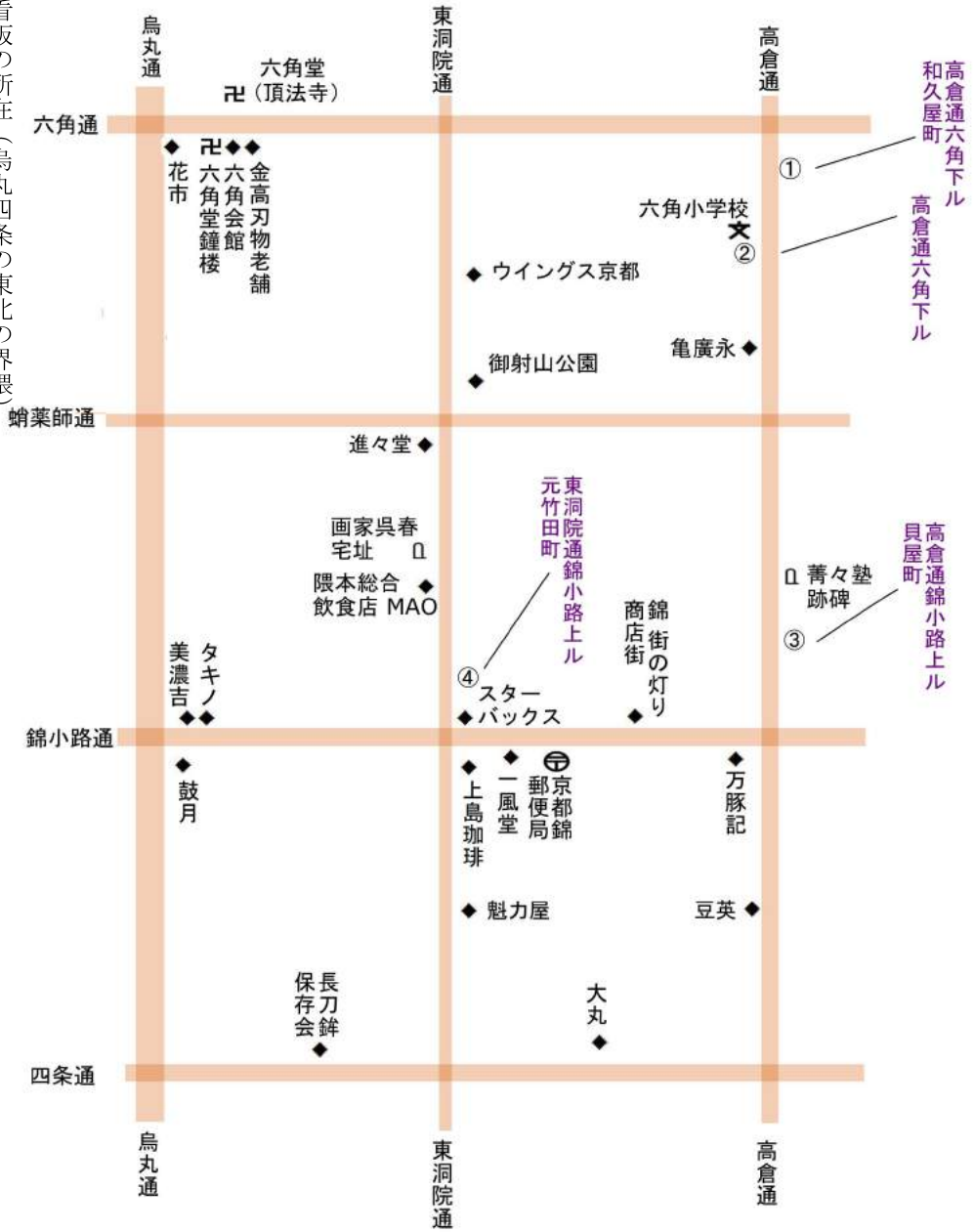
慶長拾年 春季 如意珠の日

頂法寺化鐘

六角堂の鐘楼の西隣は、六角烏丸の東南角のビルに「花市商店」。華道家元池坊の御用達。六角堂の脇にある池坊会館が、すぐ北のブロックにありますので、地の利を得ています。

六角堂の鐘楼の東隣は、「六角会館」で、京都仏教婦人会の施設です。浄土真宗系の組織なので、定期的には、親鸞に関する講演などをおこなっています。六角会館三階には、京都メデイカルラボ京都校が医系専門予備校として開設されています。

町名看板の所在
(烏丸四条の東北の界限)



六角堂（頂法寺） 鐘樓の駒札



六角堂（頂法寺） 鐘樓



その隣にビルは、「金高刃物老舗」。ちょうど六角堂の正門の真向かい。なかでも、エンピツ削り専用刃物が、おもしろい。プロの画家がデザインした使いやすいエンピツ削りで、刃付けまで一人の職人が仕上げた金高オリジナル商品。そのほかに、最高級耳かき、「聶（じょう）」。希少な素材である「煤竹」を使用しているので、折れずによく「しなう」ことで、耳にやさしいのが特徴といえます。

■ 高倉小学校と日彰学区

高倉通六角下ル和久屋町に、東面する形で、高倉小学校があります。京都の小学校は、少子化の影響で統廃合が繰り返されました。立誠、生祥、日彰の各小学校が高倉東に、明倫、本能の各小学校が高倉西に統合されたあと、平成七年に、高倉東と高倉西が統合されて高倉小学校となったもの。ところが、近年はマンションが建ち始めたため、逆に生徒数が増えるという現象がおこっているようです。

高倉六角の交差点を南下して、すぐ東側に町名看板「高倉通六角下ル（和久屋町）」①が設置されています。スポンサーはロイヤルライオンズクラブ。

六角小学校の正面とグラウンドを、高倉通から見渡すことができます。正門の脇の壁面に、ロイヤルライオンズクラブがスポンサーになっている、詳細な町名看板「高倉通六角下ル」②が設置されています。

高倉小学校は、旧日彰小学校跡地に建てられました。高倉小学

校のあるブロックには、日彰学区の名残として、東洞院通に面して、日彰自治会館や日彰消防分団の建物があります。ちなみに、日彰学区は、北は三条通、南は四条通、東は柳馬場通、西は烏丸通に囲まれた地域です。

この建物の南隣に、「京都市男女共同参画センターウイングス京都」（京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町）があります。もともとは、「京都市女性総合センター」として開設したもので、名称の変更（女性↓男女共同）は、時代の趨勢を先取りしていると感じます。「ウイングス京都」の建物は、イオニア式石柱（古代ギリシャ建築の列柱様式の一）や深緑のペディメント（破風）が印象的なレトロモダンな外観をもっており、ここにあった旧・京都商工銀行（明治四十一年建設）の外壁をそのまま保存したものです。「ウイングス京都」には、図書情報室、相談室、貸会議室等が設けられており、様々な講座（たとえば、男女共同参画に関する各種講座のほか、女性の就業支援のためのパソコン講座、男性向け講座、気功・エアロビクス等の女性の健康支援のための講座など）を開設しています。



高倉通六角下る（和久屋町）①



高倉通六角下る②

■ 御射山公園

東洞院通と蛸薬師通の交差点の東北角に御射山公園があります。繁華街の近くにある公園としては、広大で、樹木が多くほっと息できる場所です。

ウイングス京都と御射山公園の間の通路を東に歩くと、高倉小学校の裏門突き当たりです。普段は閉まっていますが、取材時（二〇一八年十月十三日）には、運動会が開催されており、生徒が出番待ちをしていました。

「御射山町」は、東洞院通の両側町です。この町名は、かつてウイングス京都の付近にあった、御射山諏訪神社に由来しています。ちなみに、長野県の諏訪大社の上社の祭事として、御射山祭がおこなわれています。

天明七年（一七八七年）に刊行された『拾遺都名所図会』に、

高倉小学校校門



運動会



御射山公園



次のような記載があります。

御射山諏訪社

東洞院通六角の南、御射山町人家の奥にあり。信州諏訪明神を勧請す。鎮坐の年記詳ならず。毎歳七月二十七日祭式を修す

秋里籬島『拾遺都名所図会』巻之一

河内屋太助、天明七年（二七八七年）

人物往来社、昭和四十二年（一九六七年）

ちなみに、京都にある諏訪神社については、本シリーズ第九回で、諏訪町通の場下る下諏訪町に鎮座する諏訪神社を、本シリーズ第十九回で、諏訪開町（すわびらきちょう）に鎮座する諏訪神社を紹介しています。

■ 和菓子・亀廣永

高倉小学校のグラウンドの南隣に、和菓子の名店『亀廣永』（高倉通蛸薬師上ル和久屋町）があります。なかでも「したり」が有名。「したり」はもともと祇園祭の菊水鉢のお茶会に出されていた献上菓子で、外観は、琥珀色をした黒砂糖の寒天です。本シリーズ第30回で菊水鉢の由来を述べたように、菊水鉢は、菊の葉から「したり」落ちた雫が菊水の流れとなり、これを汲んで七百歳の長寿を保ったという中国の故事「菊慈童」にちなんでいます。この銘菓の銘もこの故事に由来します。重厚な看板は「歴史的意匠屋外広告物」に認定されています。

本シリーズ第31回と今回の地域の心覚えのために、六角東洞院の交差点を中心とする四つのブロックの案内図を載せておきましょう。

■ 画家呉春宅址

東洞院通錦小路下るに進々堂東洞院店があります。京都ではパンのチェーン店として有名で、店内でイートインすることもできます。

東洞院通錦小路上の西側に、「画家呉春宅址」の碑が建っています。松村呉春（一七五二—一八一八）は、初期は、松村月溪と称しました。安永二年（一七七三年）には与謝蕪村の内弟子として入門し、すぐに頭角をあらわしました。早くも、安永四年（一七七五年）版『平安人物誌』の画家の項に、師の与謝蕪村の記載とともに、「松月溪、号蕉雨、字文蔵、四条高倉西へ入町、俗称松村文蔵」と記載されています。後に、呉春と号するようになり、蕪村の死後、呉春（月溪）は、残された蕪村の妻子を親身になって世話をしたと伝えられています。蕪村の死前後から円山応挙の画風に学ぶようになりました。応挙の死後は、蕪村から受け継いだ文人画の詩趣と応挙から学んだ写生画の様式を統合して、独自の画境を極め、四条派の祖となりました。

その一軒おいて南に、「隈本総合飲食店 MIAO(ミャウ)(京都府京都市中京区東洞院通錦小路上ル元竹田町)があります。京都の町家を改装したもので、外見は京都の町屋風。「総合」というのは、カ



六角東洞院を中心とする四つのブロックの案内図

菁菁者莪、在彼中沚。既見君子、我心則喜。
菁菁者莪、在彼中陵。既見君子、錫我百朋。
汎汎楊舟、載沈載浮。既見君子、我心則休。

孔穎達疏『詩經注疏』（四庫全書版）

<http://www.chineseclassic.com/content/523>

本文の部分は、筆者の能力を超えるので、訓点は省略しました。

（意識）

みずみずしく茂ったアザミは、川の中。君子はこれを見る。楽しくかつ儀がある。

みずみずしく茂ったアザミは、中州の中。君子はこれを見る。私の心もうれしくなる。

みずみずしく茂ったアザミは、丘の中。君子はこれを見る。わたしに、ご祝儀をくださる。

流れ漂う柳の小舟は、沈んだり浮いたりする。君子はこれを見る。私の心もおだやかになる。

町名看板「高倉通錦小路上る（貝屋町）」④が、高倉通の東側の松川酒店の北側の隔壁に貼り付けてあります。

■ 大丸と四条東洞院内裏址

現在大丸が占めているブロックには、平安時代末期に、四條東洞院内裏がありました。



「菁々塾跡」の碑



高倉通錦小路上る（貝屋町）④

大丸四条口西側の壁面に、「四條東洞院内裏跡」の銘板が貼つてあります。

四條東洞院内裏跡

四條東洞院内裏は、近衛天皇（一一四一―一一五五）の里内裏であって、南は四条大路、北は錦小路、東は高倉小路、西は東洞院大路によって画された方一町（一一二―一米四方）の敷地を占めていたが、現在その大部分は株式会社大丸京都店の敷地となっている。

平安時代後期の初め、ここは鳥羽法皇の臨時の御所であったが、久安四年（一一四八）六月、近衛天皇はここに遷り里内裏とされた。「二代の后」の名で知られる皇后藤原多子も共にここにおられた。しかし仁平元年（一一五一）六月、この御所は炎上し、天皇は小六條殿に遷幸された。

その後この地は参議藤原惟方の所有に帰した。まもなく惟方は、皇太子守仁親王（後の二条天皇）の御所にこの邸宅を提供した。久寿二年（一一五五）十二月、皇太子はここに遷御され、翌年三月、妹子内親王との婚儀もここで行なわれた。

東宮は、保元二年（一一五七年）六月まで、この四條東洞院第を御所とされていた。この地が里内裏ついで東宮御所となっていたのは「保元の乱」（一一五六年）前後の政情不安の時期であったが、さまざまな政治的な葛藤がここを舞台として起こったと言う意味で四條東洞院内裏の存在は、日本歴史の上で忘れ難いのである。

昭和五十一年十一月

平安博物館

守仁親王（後の二条天皇）は、雅仁親王（後の後白河天皇）の長男として生まれました。守仁親王を二条天皇として擁立するたために、その父親の雅仁親王を後白河天皇として擁立しました。この変則的な皇位継承が、保元の乱の遠因になったことは、このシリーズ第31回でのべました。さらには、後白河上皇と二条天皇の

対立が平治の乱を惹き起こしました。この結果は、平清盛を味方につけた二条天皇派の勝利でしたが、乱の後は、二条派の要人が消えて、両派の痛み分けという状態になります。漁夫の利を得たのが平清盛で、平家の興隆につながります。

■ ラーメン・コーヒー・和菓子

街のど真ん中ですが、錦小路通東洞院東入の路上に公衆便所があります。先に紹介したスターバックスの店舗とは、錦小路通を跨いで真向かいです。普通は、公衆トイレは公園の片隅などに設置されるのですが、何でこんなところにあるのだろうかというのが正直な感想。

その東側に、博多ラーメンの一風堂が開いています。「何で京都で博多ラーメン」と茶々を入れたくなりますが、その二階は、京風おでんの青天家錦。その東隣には、京都東洞院錦郵便局（錦小路通東洞院東入阪東屋町）があります。

このブロックは、ラーメン屋が多いことに気づきました。多分、錦市場に来る外国人目当てであろうとおもわれます。錦市場のアーケードが尽きた西側、錦小路通南側に、万豚記京都錦小路店（錦小路通高倉西入る西魚屋町）。「万豚四川担々麵」として、黒胡麻坦々麵、白胡麻坦々麵などを提供しています。

東洞院通の東側に、京都発祥のラーメン店チェイン「魅力屋」四条烏丸店（東洞院通錦小路下ル 阪東屋町）。京都漆黒醤油ラーメンは、あつさり醤油系。

東洞院錦小路から、東洞院通を下がった東側に上島珈琲の京都

四条烏丸店があります。大手のチェーン店の一店舗。

続いて、和菓子の情報。大丸京都の地下一階に「笹屋伊織」。定番の和菓子は、竹の皮に包んだ「どら焼き」。本店は、七条通大宮西入花畑町にあり、すでに本シリーズ第19回の最後の箇所で紹介しました。「どら焼き」が、三笠饅頭の形ではなく、棹物であることを実物写真で示してあります。

同じく、大丸京都の地下一階に「仙太郎」。定番は、餡があふれんばかりの「ご存じもなか」。季節によっては、「みなづき」や「わかあゆ」。国産本わらびを使った、十割まぜものなしの「わらび餅」。本店は、寺町通り仏光寺上る中之町にあり、すでに本シリーズ第11回の「寺町の寺々と電気街」の項の最後のところで、聖光寺の北側にあると紹介しました。「ご存じもなか」のカロリーを計算してありますので、メタボリックシンドロームが心配の方はご覧ください。

高倉通の大丸の建物が尽きた、すぐのところ、まひで豆英（京都府京都市中京区高倉通四条上ル帯屋町）があります。昔ながらのあられやせんべいなどを売っていて、懐かしい雰囲気です。

このブロックの四条通に面したところは、大丸と日本生命四條ビルが占めています。日本生命四條ビルの五階には、京都下労働基準監督署もテナントとして入っています。

■ 長 刀 鉾

四條烏丸交差点の東北には、京都三井ビル（三井住友銀行京都支店）。その角には、旧建物の一部（ギリシア風石柱）が保存さ



長刀鉾保存会

れています。

その東に、四條通のアーケードに破風が設えられたところに長刀鉾の会所（四條通東洞院西入長刀鉾町）があります。祇園祭のときは、この破風の真ん中がとりはずされて、会所の二階部分から組み立てられた長刀鉾へ渡るための橋が渡されます。

長刀鉾は、祇園祭・前祭の山鉾巡行のときに、毎年「くじとらざ」で、巡行の先頭を走ります。山鉾の中で唯一、生身の稚児（生稚児）が乗っています。この生稚児は、「しめ縄切り」（神の領域との境界線に張られたしめ縄を切り、結界を解く）の大役を担います。

烏丸錦小路の交差点の東南角のビルに、和菓子店「鼓月」四條烏丸店（京都府京都市中京区烏丸通錦小路下る筈町）とその

二階の「茶房こげつ」。名物は、波の模様が印象的な「千寿せんべい」。

筭町は、本シリーズ第30回の「孟宗山」の会所（烏丸通錦小路下の筭町）の紹介のところで出てきました。烏丸通を挟んで東と西が同じ住所表示になっています。筭町が、烏丸通の両側町にであることを示しています。



プロフィール

藤田眞作（ふじたしんさく）。一九四四年（昭和十九）北九州市生まれ。学生・大学助手として、十年間、京都で生活。工学博士を取得後、二十五年間、富士写真フイルム（株）足柄研究所にて、記録材料用の有機化合物の開発に従事。この間の仕事は、二〇〇四年に、モノグラフ「Organic Chemistry of Photography」（587ページ）をドイツのSpringer社から出版。数理化的方面の仕事は、一九九一年に、モノグラフ「Symmetry and Combinatorial Enumeration in Chemistry」（368ページ）をドイツのSpringer社から出版。次の十年間は、京都工芸繊維大学教授として、有機合成化学・情報材料化学・化学情報学・数理化の研究教育に従事。そのかたわら、菓子をもとめて京都市内を徘徊し、仁丹の町名看板に興味をもつ。二〇〇七年より、湘南情報数理化研究所（<http://xyntex.com>）を主宰。それまでの数理立体化学に関する仕事の集大成として、二〇一三年に、モノグラフ「Combinatorial Enumeration of Graphs, Three-Dimensional Structures, and Chemical Compounds」（576ページ）をマルセル・エッセルのKragujevac大学出版局（Mathematical Chemistry Monographs）シリーズ第15巻）より出版。xviii+110一五年に、モノグラフ「Mathematical Stereochemistry」（437ページ）をドイツのDeGruyter社から出版。

「仁丹の町名看板をよすがに京めぐり」（第32回） 2019/4/30

© 2007, 2008, 2010, 2017, 2019 藤田眞作

<http://xyntex.com>

